

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## スペイン語の教科書に現れるアラビア語起源語： 文法用・会話用教科書における分析

メタデータ	言語: ja 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2023-03-24 キーワード (Ja): スペイン語教科書, アラビア語起源, アラビア語における意味, 語根, 使用頻度 キーワード (En): 作成者: 土井, 裕文 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	<a href="https://doi.org/10.18956/00008068">https://doi.org/10.18956/00008068</a>

# スペイン語の教科書に現れるアラビア語起源語

— 文法用・会話用教科書における分析 —

土 井 裕 文

## 要 旨

スペイン語はアラビア語起源の単語が豊富に含まれるといわれる。本研究は関西外国語大学スペイン語学科1年次のスペイン語の文法用・会話用教科書に現れるアラビア語起源の語を調査し、出現するアラビア語のアラビア文字による情報やアラビア語における頻度を紹介し、1年次で学ぶスペイン語の単語の知識がアラビア語学習にどのくらい助けになるかを考察する。

初級の教科書では、だいたい8ページに1単語程度がアラビア語起源であった。そのアラビア語起源の単語を精査していくと、アラビア語の世界で上位2000語に現れてくるのは、1/3程度であり、上位4200語に広げても2/3程度であった。よく使われるアラビア語とスペイン語におけるアラビア語起源の単語は、あまり連動しないという結果になった。

**キーワード：**スペイン語教科書、アラビア語起源、アラビア語における意味、語根、使用頻度

## 0. 序

スペイン語はアラビア語起源の単語が豊富に含まれるといわれる。本研究は関西外国語大学スペイン語学科1年次のスペイン語の文法用および会話用教科書に現れるアラビア語起源の語を調査し、出現するアラビア語のアラビア文字による情報やアラビア語における頻度を紹介し、1年次で学ぶスペイン語の単語の知識がアラビア語学習にどのくらい助けになるかを考察する。

スペイン語にアラビア語起源がどのくらい含まれているかは、スペイン語の専攻語の授業で脇役として紹介されることがある。吉田(1957)では4000語程度、そしてCano Aguilar(1988:53)は、一般論としてアラビア語起源であるものは8%程度であると言っているものの、具体性はあまり帯びていない。なお、Kiesler(2007:282)によるとスペイン語基本語彙の0.92%がアラビア語起源であると述べている。

実際の授業で、どの単語がアラビア語起源であるかは、al-で始まる単語、例えば、algodón「綿」やLa Alhambra「アルハンブラ宮殿」が登場する時を除いて、ほとんど語られない。

なお、アラビア語起源のスペイン語の単語は、実は正則アラビア語では語形や意味が異

なっていることも多い。本研究には登場しないが、例えば、スペイン語の名詞複数形の作り方でしばしば登場する jabalí「いのしし」はアラビア語起源の単語ではあるが、元の جبلي (jabali ジャバリ) というアラビア語では「山の」という意味である。جبلي (jabali) は、جبل (jabal ジャバル「山」)<sup>1)</sup>と ي (i「～の」) の2形態素に分割できるのだが、jabalíのどこでアラビア語の形態素として区切れているのか、スペイン語の語源の大家 Corominas & Pascual (1989: 473) や Coromines (2008: 318) からはわかりにくい。<sup>2)</sup> 少なくとも Pando Villarroya (1997) を除いて、筆者はアラビア語の ي (i) を形容詞化の語尾として取り扱っているスペイン語の辞書に遭遇したことがない。なお、「いのしし」を表すスペイン語の puerco jabalí や puerco montés という表現が RAE y ASALE (2014: 1809) (以下「DRAE23版」と略) の辞書の puerco (豚) の項目に掲載されている。これらの表現は、アラビア語本来の用法「山の豚<sup>3)</sup> = いのしし」を翻訳していると思われるが、これに関しても全く言及がない。<sup>4)</sup>

前出の La Alhambra も正則アラビア語では、الحمراء (al-hamra' アルハムラーウ) と綴るが、Pando Villarroya (1997: 192) では、el castillo rojo「赤い城」という注釈がついているものの、「宮殿」という単語は省略されているので、英語でいう the red「ザ・レッド」と言っているに過ぎない。意味にずれが生じてくるのである。意味はさておき、スペイン語分野の辞書では、このアラビア文字による綴りにたどり着くのが、実はたいそう困難なのである。

理由は、ある単語に関してアラビア語源を記載しようとしてラテン文字で転写する場合、研究者や出版物によって綴り方が異なるからである。Corominas & Pascual (1989: A-CA XXXVI) のようにアラビア起源語のラテン文字転写の一覧が添えられていると問題ないのだが、通常のスペイン語辞書 (例えば DRAE23版) にはそのような一覧が付属していない。

表記のバリエーションについては、アルハンブラ宮殿 al-hamra' の場合を例に見てみよう。al-hamra' の al が定冠詞であることは知られているが、hamra' の h に相当または h で代用されうるアラビア語音の候補は、驚くことに3つもある。<sup>5)</sup>

- : 無声・声門・摩擦音
- ح: 無声・咽頭・摩擦音
- خ: 無声・口蓋垂・摩擦音

そこに加えて、アラビア語女性名詞の語尾を表す◦が、[t]という音価であるにもかかわらず、文字上、◦[h]の変種であるからという理由により h で転写されることがある。DRAE23版の café「コーヒー」の語源記載情報には、アラビア語の qahwah に由来するとあるが、最初の hwa の h は◦である一方、語末の h は◦なのである。◦は音価を優先して t で転写されることもあるので、t で表しうる他のアラビア文字として次の2候補による変種の可能性も念頭に置く必要がある。

ㄷ：無声・歯茎・破裂音

ㄱ：無声・歯茎・破裂音（口蓋垂化音）<sup>6)</sup>

さらに、アラビア語辞典の語彙の立項方法が壁となって立ちほだかる。筆者の知る限り、正則アラビア語の辞書は、本田・石黒（1997）、田中（2017）などの初級者用辞書を除き、語根をもとに収録されている。語根をもとに収録されているというのは、例えば、本研究に登場するスペイン語 *mezquita* の語源である مسجد (masjid マスジドウ「モスク」) は سجد sjd 「ひざまづく」という語根を持っている。この مسجد masjid から سجد sjd という語根を抽出するのが辞書を引く際の困難点となる。<sup>7)</sup>

スペイン語の単語で説明するなら、*introducen* 「彼らは挿し込む」や *conduzco* 「私は運転する」といった動詞活用形のほか、*educable* 「教育できる」といった形容詞、*producción* 「生産」、*traductores* 「翻訳者たち」といった名詞も -duc- という項目に収録されているようなものである。西和辞典のほとんどで、*conduzco* や *educable* の辞書掲載形が -duc- であるなら、スペイン語の学習に高い障壁が生じる結果になるのもスペイン語の教員なら領けることだろう。<sup>8)</sup> なお、この段落に列挙したスペイン語の単語は、いずれもラテン語に遡ると DUCERE 「導く」にたどり着く。*introducen*、*conduzco*、*educable*、*producción*、*traductores* は、この DUCERE に接頭辞や接尾辞、語根変化を伴ったものである。

このように、アラビア語の語源をスペイン語の辞書から知ったにせよ、スペイン語辞典の語源情報から正則アラビア語に辿り着くまで、たとえ1語であっても、かなりの時間を費やしてしまう。本稿で収録したアラビア語起源の単語は、とても少ないという批判も予想されるが、アラビア文字で転写した情報は、アラビア語の辞書を引く際に役立つと考えられる。

スペイン語の教科書ではどのぐらいの割合でアラビア語起源の表現が登場してくるかの調査は、筆者の知る限り、まだ行われていない。逆に、歴史上、どんなアラビア語がスペイン語へ入っていったかを一覧にした研究をアラビア語教育の観点でまとめている精究も今のところ、見つかっていない。<sup>9)</sup> そこで、アラビア語起源の表現がどれだけ日本のスペイン語教科書に掲載されているかを考察するのが本稿の目的である。

## 1. スペイン語におけるアラビア語起源の語に関する先行研究

### 1.1 吉田（1957）

吉田（1957）は、我が国のスペイン語研究において、初めてアラビア語起源の単語を紹介した論文である。「Real Academia Española の大辞典には、アラビア語に起源を有するも、現代イスパニア語として採用されている単語が4000語以上記録されている。（中略）尚、4000語に余るこれらの単語が全部純粋にアラビア語であるか否かは相当疑問があり、その語源のはっ

きりしない語が多少ある」。(吉田1957: 104)

一般的には、アラビア語起源の単語を紹介しているにとどまっているが、半世紀以上も前という時代を考慮すると、アラビア語起源の単語を数多く紹介している点において画期的な先行研究である。なお、吉田(1957)でも、アラビア語起源である単語に、アラビア文字による表記はまったく付いていない。もちろん、スペイン語教育の観点からアラビア語起源を研究したものでもない。

本稿では、吉田(1957)のようなスペインの歴史から見たアラビア語起源の単語ではなく、日本の教科書に現れるアラビア語起源の単語を扱う。

## 1.2 長谷川(2011)

長谷川(2011)は、スペイン語と対比させながら、スペイン国内の公用語の1つ、カタロニア語におけるアラビア語起源の語彙を考察した論究である。スペイン語、カタロニア語の両言語に入った際のアラビア語定冠詞 *al* の有無などに言及している。とはいえ、アラビア語の面からは記述していない。アラビア語自体の音韻、形態的記述に触れていない理由を「筆者のアラビア語に対する知識不足によるもの」(長谷川2011: 13)としている。

長谷川(2011)と異なり、本稿は、カタルーニャ語の観点からの研究ではない。スペイン語の観点からのアラビア語起源語についての記述である。とはいえ、可能な限りアラビア語の形態的特徴にも言及したい。

## 1.3 Nieto Ballester(2017)

Nieto Ballester(2017)は、語源を音声・音韻・形態の面から概説している。中でも、借用語という側面にページを割いている。そこでは、アラビア語起源語は、借用語のなかでは、25パーセントの割合を占めるという(Nieto Ballester 2017: 172)。スペイン語の通史のなかでアラビア語起源については、26単語が扱われている。しかし、ただの一つもアラビア文字による注釈は付いていない。例えば、スペイン語 *maimón* 「縁起のいい」という単語が登場する。この単語は正則アラビア語の *ميمون* (*maymun* マイムーン「幸せな」)に由来する。この *maimun* は、*يمن* *ymn* が語根であるが、この *يمن* *ymn* が語根であるところまでは、Nieto Ballester(2017)は報告していない。

本稿は、スペイン語の1年次文法用・会話用教科書に現れる語彙のうち、アラビア語起源の語を洗い出し、由来となったアラビア語を記述していく。アラビア文字で記述していくことによって、スペイン語の教科書のうち、アラビア語に由来する単語がどのぐらいの頻度で登場するのかを示す。そして、語根主義のアラビア語の辞典を引きたいと願う人に役立つよう、アラ

ビア文字による語根も可能な限り紹介する。

## 2. スペイン語の教科書に現れるアラビア語起源の単語

スペイン語の教科書に現れるアラビア語起源の単語を紹介するにあたり、当初は関西外国語大学スペイン語学科2021年度1年次配当科目「スペイン語基礎文法」の教科書1冊だけを調査するつもりであった。しかしながら、日本語母語話者が執筆した1冊だけを対象にするよりも、スペイン語ネイティブスピーカーによる授業「Español Comunicativo I/II」の教科書<sup>10)</sup>も加え、さらには、今から30年前、つまり1992年の関西外国語大学のスペイン語学科の「スペイン語文法論 I/II」「スペイン語会話 I/II」の教科書と比べてみるとさらに研究としては幅が出ると考え、新たに3つの教科書を調査対象とすることとした。合計4冊の教科書は次のとおりである。

### 関西外国語大学スペイン語学科1992年度1年次教科書

Kopp, Hilario (1983) *Libro 1 PRIMEROS PASOS Ejercicios prácticos de conversación*, 厚進社.

三品守 他 (1986)『スペイン語典型文法』芸林書房.

### 関西外国語大学スペイン語学科2021年度1年次教科書

Moreno, Concha 他 (2009) *Nuevo Avance 1*, SGEL.

和佐敦子 (2014)『スペイン語基礎文法』白水社.

なお、今回の調査対象は一般名詞とし、Algeciras「(スペイン南部の都市名) アルヘシラス」などの固有名詞は対象外とした。また DRAE23版でアラビア語起源の表示があるものに限定した。<sup>11)</sup>

表1は、4冊の教科書に現れたアラビア語起源のスペイン語の単語である。どの教科書に収録されていたのかは、当該教科書の筆頭著者名で記した。

表 1 調査教科書に現れたアラビア語起源語

アラビア語起源語	文法教科書		会話教科書	
	1992年	2021年	1992年	2021年
aceite				Moreno他
aceituna				Moreno他
alcohol		和佐		Moreno他
alfombra				Moreno他
algodón		和佐		
almacén		和佐		
alquilar		和佐		
arroz	三品他		Kopp	Moreno他
azotea			Kopp	
azúcar			Kopp	
azul		和佐	Kopp	Moreno他
barrio		和佐	Kopp	
café	三品他	和佐	Kopp	Moreno他
cero	三品他	和佐		Moreno他
gazpacho				Moreno他
guitarra	三品他	和佐	Kopp	Moreno他
hasta	三品他	和佐	Kopp	Moreno他
holgazán	三品他		Kopp	
jinete	三品他			
mezquita		和佐		
naranja		和佐	Kopp	Moreno他
ojalá	三品他	和佐		
safari				Moreno他
sandía			Kopp	Moreno他
sofá		和佐	Kopp	
taza			Kopp	
zanahoria				Moreno他
合計	8	14	13	15
索引などを除いた本文総ページ数	58 +別冊15	80	88	118
出現率（新出アラビア起源語1語あたりのページ間隔）	9.125	5.714	6.769	7.866

教科書出現のアラビア語起源語合計	42
索引などを除いた本文総ページ数	359
出現率（新出アラビア起源語1語あたりのページ間隔）	8.547

上記の4冊ともアラビア語に関するコラムが収録されているわけではないので、著者たちは、おそらく意図してはいないだろうが、文法、会話の教科書とも、30年前と比べて、アラビア語起源の単語が増えている。しかし、文法の教科書では増加傾向であるが、会話の教科書では、絶対数は増えたものの、ページ数も多くなっていることから、新出アラビア起源語1語あたりのページ出現率は低下している。

全体からすれば、アラビア語起源の単語は、ほんのわずかな割合しか占めていないことには変わらない。1年生で学修する基礎語彙のなかに、アラビア語起源が含まれるのは8ページに1語程度であるといえる。次の章では、これらの語彙がアラビア語では頻度の高い単語であるかどうかを検証していく。

### 3. スペイン語の辞典におけるアラビア語起源の語に関する語源情報

表1に示した、スペイン語の教科書に出現したアラビア語起源の単語について語源情報をまとめると表2になる。語源情報は、アラビア語に関するものに限定し、ギリシア語経由などの情報は割愛した（例えば、スペイン語の *guitarra* は、ギリシア語の *κιθάρα* キタラに端を発しているが、ギリシア語等の情報は転記していない）。



表2 アラビア語起源語の語源情報 (\*印は原典に付与されていて、「推定形」を意味する。)

アラビア語起源語	スペイン語での意味	DRAE23版語源情報 (アラビア語関連に限る。意味は原典ではスペイン語。筆者が日本語訳した)	高垣他 (2007) の語源情報 (アラビア語関連に限る)
aceite	油	azzayt	az-zayt 「オリーブ油」
aceituna	オリーブの実	zaytūnah	az-zaytūna ; 関連aceite
alcohol	アルコール	kuḥl.	話 al-koḥol (古典語はkuhl) ; 「アルコール、酒精」の意味で用いられるのは18世紀以降
alfombra	絨毯	ḥanbal 「中古のコート」. ḥumrah 「赤」	al-khumra
algodón	綿	quṭn.	al-qoṭon (古典語はquṭn)
almacén	倉庫	maḥzan.	al-majzan
alquilar	賃貸	kirā'	話 al-kire ; 古典語ではal-kirā ; 関連alquilar
arroz	米	āruz[z] o aruz[z]	ar-ruzz
azotea	屋上	saṭḥ 「テラス」	as-suṭayḥ 「小さな平屋根」
azúcar	砂糖	sukkar	as-sukkar
azul	青色	おそらくlāzaward	話 *lāzūrd ((アラビア) lāzuward 「るり」の派生語)
barrio	地区	barrī 「野生の」	話 barrī 「郊外の」 ((アラビア) barr 「郊外」より派生)
café	コーヒー	qahwah	qahwah
cero	ゼロ	ṣifr 「空っぽ」	ṣifr 「空虚、ゼロ」
gazpacho	ガスパチョ (冷製スープ)	おそらく*gazpáčo	記載なし
guitarra	ギター	qīṭārah	qīṭhāra
hasta	～まで	ḥattā	ḥatta
holgazán	怠惰な	おそらくkaslān	記載なし
jinete	騎手	Del ár. hisp. zanāti	話 zenēti 「セネータ人」
mezquita	モスク	masḡid 「跪く場所」	記載なし
naranja	オレンジ	nāranġ	nāranj
ojalá	願わくば～	Del ár. hisp. law šá llāh 「もし神が望むなら」	wa shā' Allāh 「神のおほしめしがありますように」 ; 関連Alá
safari	狩猟旅行	safar 「旅行」	記載なし
sandía	すいか	sindiyyah 「シンド (パキスタンの地方) の」	(baṭṭīha) sindīya <sup>12)</sup> 「(インドの) シンド国の (メロン)」
sofá	ソファー	ṣuffah	ṣuffah
taza	カップ	ár. ṭassah o ár. clás. ṭast	ṭāssa
zanahoria	にんじん	Del ár. hisp. *safunnāriya	方言 safunāriya

これらのうち、alfombra、gazpacho、jinete、zanahoria の4 単語については、語源を特定することができなかった。alfombra は Corominas & Pascual (1989: 156) や高垣他 (2007) の語源情報 humra や khumra であれば、おそらく خمر「赤」というアラビア語に由来するのだろうが、「絨毯」と「赤」を結びつける説明を見つけることができなかった。DRAE23版の ḥanbal となると、これに相当するアラビア語 حنبلが辞書で見つからなかった。gazpacho は Moscoso García (2015) によっても立項されていないし、Corriente & Ould Mohamed Baba (2010: 713) でも冷製スープとの説明<sup>13)</sup> しか掲載されていない。驚くことに、Corominas & Pascual (1989) において、gazpacho は、そもそも項目として立てられていなかった。jinete の語源となっている zanāti や zenēti など z や n が語根として関わるような単語は辞書で確認できていない。<sup>14)</sup> 最後の zanahoria も Corominas & Pascual (1989: Y-Z 165) では、口語アラビア語の safunariya からカタルーニャ語などに入った旨の記述があったり、DRAE21版では pastinaca 「にんじん」を意味する isfannariya という北アフリカのアラビア語に由来しているという説明があったりするが Moscoso García (2015) では見つからないので、はっきりとした語源があるとはいえない。

表2のアラビア語起源語の語源情報から推察されるアラビア文字を一覧にしたものが表3である。表3には併せて、そのアラビア文字の綴りに対する日本語訳および Familiar (2021) による頻度データを提示した。

表3 調査教科書に現れたアラビア語起源語の日本語訳およびFamiliar (2021) による頻度調査

アラビア語 起源語	語源情報から推 察されるアラビ ア文字 (定冠詞 部分は除く)	アラジン ( <a href="http://www.linca.info/alladin/">http://www.linca. info/alladin/</a> ) による 左の単語の日本語訳	Familiar (2021) による 頻度順位 (-は上位2000に入っ ていないことを示す)	Familiar (2021) による 延べ語数 X語/271121語
aceite	زيت	油	1741	20
aceituna	زيت زيتون	オリーブの木	1912	18
alcohol	كحل	アンチモン	-	
alfombra	語源不詳			
algodón	قطن	綿	-	
almacén	مخزن	倉庫	-	
alquilar	كراء	賃貸	-	
arroz	رز	米	-	
azotea	سطح	屋根	804	46
azúcar	سكر	砂糖	1743	20
azul	لازورد	瑠璃色	-	
barrio	بر	陸地	-	
café	قهوة	コーヒー	348	99
cero	صفر	ゼロ	-	
gazpacho	語源不詳			
guitarra	قيثارة	ギター	-	
hasta	حتى	～まで	88	362
holgazán	كسلان	怠惰な	-	
jinete	語源不詳			
mezquita	مسجد	モスク	775	48
naranja	نارنج	苦いオレンジ	-	
ojalá	لو شاء الله ، و شاء الله	لو: もし شاء: 望む الله: アッラー و: ～と (筆者注: 神がお望み になるなら)	law 91 sha'412 allah 73 wa 2	law 359 sha'85 allah 421 wa 20499
safari	سفر	旅行	411	85
sandía	سندي	سند: シンド地方 (筆者注: ايは「～の」)	-	
sofá	صفة	棚	-	
taza	طاسة	コップ	-	
zanahoria	語源不詳			

لو شاء الله (law sha' allahラウシャーアアッラー) と و شاء الله (wa sha' allahワシャーアアッラー) は ojalá の語源ということで、1語扱いにしている。

上位2000語のなかにノミネートされる単語は、語源の遡れる23語中9語であった。現代スベ

イン語に残るアラビア語は、借用語の観点から言っても多いとは言えないのだが、さらに現代アラビア語においても使われる単語が少ない。DRAE23版がアラビア語起源と記述した単語のうち、現代アラビア語で上位2000に入ってくる単語は3分の1である。

本田・石黒（1997）は4200語収録の初級アラビア語辞書を上梓している。本田・石黒（1997）にとってアラビア語学習で上位4200語を集めたものといえる。4200語の範囲となると、23語中15語が入ってくる。それでも、65%であり、まだ3分の1しかカバーしていない。

表4 語源情報から推察されるアラビア語、意味、読み方

アラビア語起源語	語源情報から推察されるアラビア文字（定冠詞部分は除く）	左のアラビア文字で綴った本田・石黒（1997）による意味	本田・石黒（1997）によるカナ発音
aceite	زيت	油	ザイトウ
aceituna	زيت زيتون	オリーブの実	ザイトウーン
alcohol	كحل	－	
alfombra	語源不詳		
algodón	قطن	綿	クトウン
almacén	مخزن	店、倉庫	マフザン
alquilar	كراء	－	
arroz	رز	－	
azotea	سطح	表面、平面、屋根	サトゥフ
azúcar	سكر	砂糖	スツカル
azul	لازورد	－	
barrio	بر	陸、地上	バツル
café	قهوة	コーヒー	カフワ
cero	صفر	ゼロ	スイフル
gazpacho	語源不詳		
guitarra	قيثارة	－	
hasta	حتى	まで、さえも	ハッター
holgazán	كسلان	怠けた	カスラーン
jinete	語源不詳		
mezquita	مسجد	モスク	マスジドゥ
naranja	نارنج	－	
ojalá	لو شاء الله ، و شاء الله	もし・欲する・神	ラウ（またはワ）・シャアア・アッラーフ
safari	سفر	旅行	サファル
sandía	سندي	－	
sofá	صفة	「棚」とは異語源の語だけ記載されているのでカッコ書き（性質）	（スイファ）
taza	طاسة	－	
zanahoria	語源不詳		

アラビア語の影響を大きく受けているといわれているスペイン語であるが、外国語としてスペイン語の知識をもったうえで初級アラビア語の授業に出席しても、単語がまったくといっていいほど齒が立たないという印象である。それもそのはず、上位2000語に入ってくるアラビア語の単語は1/3程度、上位4200語にランクインしてくるものでも、2/3程度だからである。スペイン語学科の学生なら、スペイン語の必修科目をマスターしたあとに、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、カタルーニャ語、ガリシア語などを履修する際、さらなる学問の好奇心が唆られるのとは好対照である。

スペイン語を基盤にアラビア語を学修するのは、日本語を基盤にサンスクリット語（梵語）を学修するようなものかもしれない。日本語は梵語の影響を受けていると言われることがあり、「旦那」や「奈落（の底）」など、日常語として日本語に根付いているものもある。50音図は、サンスクリット語の分類方法で作成されたと聞く（朝日新聞2022年7月15日「あいうえお」朝刊別刷 Be 6 ページ）。けれども、新聞や小説などの実例からサンスクリット語に端を発するものを探そうとしても、ほとんど見つからないだろう。

#### 4. 結論

関西外国語大学スペイン語学科1年次必修科目の文法用・会話用教科書におけるアラビア語起源の単語を調査してきた。1992年度と2021年度の教科書を比べてみると、アラビア語起源の単語が増加していた。和佐（2014: 85）はコルドバのMezquitaメスキータが写真付きで導入されているので、アラビア語起源の単語を意識して導入した可能性もないとはいえないが、アラビア語起源の単語が増加していたからといって、教科書作成者がアラビア語起源に関心を持ち始めたわけではないだろう。初級の教科書では、だいたい8ページに1単語程度がアラビア語起源であった。そのアラビア語起源の単語を精査していくと、アラビア語の世界で上位2000語に顔を出してくるのは、1/3程度であり、上位4200語に広げても2/3程度であった。よく使われるアラビア語とスペイン語におけるアラビア語起源の単語は、あまり連動しないという結果になった。

最後に、今後の展望を挙げておく。本稿では、固有名詞を対象としなかったが、スペインの地名には、アラビア語起源であるものが数多くある。例えば、スペインの首都であるマドリード Madrid は、高垣他（2007）の表記に従えばアラビア語の Majriṭ マジュリートに由来するという。この語源のまま現代に受け継がれてきた محريط majrit を使う一方、Madrid をアラビア語で綴った、مدرید madrid マドリードも使われている。<sup>15)</sup> 少なくとも Wehr（2013）には、どちらの語形も立項されている。

スペイン南部を流れるグアダルキビル川 el Guadalquivir は、高垣他（2007）の語源表

記によると wādī-al-kabīr (ワーディー・アル・カビール) となっている。確かに、アラビア語では、定冠詞 al を付けて、الوادي الكبير とつづり、逐語的には正しく転写されているように見える。だが、このアラビア語は、少なくともアラビア語の授業で教わる発音としては、alwadilkabir (アルワーディールカビール) である。こういった逐語的にはラテン文字転写が間違っていないものの、句単位で見れば、そのラテン文字転写には問題がありそうなものも存在する。

地名のようなイベリア半島からアフリカ大陸へ渡ったような語形は、スペイン語既習者にとって、アラビア語を学習するときに、少しでも負担が軽くなる。アルヘシラス Algeciras は الجزيرة الخضراء (al-jaziratul hdra' アルジャズイーラトゥルハズラーウ「緑の島」) とアラビア語の衛星放送アルジャジーラを関連させたりすると、スペイン語学科生にとってアラビア語世界に対する親近感をもたらすものと予想される。

モロッコアラビア語では、椅子を表す شلية (shelya シェリヤ) はスペイン語の silla から入ったとある(石原2000:9)。このようにスペイン語に似ている単語があれば、アラビア語を学習する際、とても効率がいい。<sup>16)</sup> Corriente (2007) のような研究を基盤に、アラビア語へ入っていったスペイン語の単語を教科書に織り込めば、アラビア語圏文化およびアラビア語の学習意欲が高まる可能性があるのではないか。今回は文法用・会話用教科書を扱ったが、スペイン語の講読用教科書や新聞記事に使われるアラビア語起源の語を別の機会に考察していきたい。

## 注

- 1) Medina (1973:106) によると jabal の語根は جبل jbl 「(神によって) 作り上げる」となっている。同語根を使った表現に、جبل طارق (jabalu tariqin ジャバルターリクイン「ジブラルタル Gibraltar <タリクの山」) がある。
- 2) jabal が monte 「山」で、jabalí は montés 「山の」という逐語訳は付いている。アラビア語の ـى (-i) は、形容詞語尾の1種ではあるが、どんな形容詞でもこの語尾になるのではない。その意味で、monte-montés の対立になっているのは、正鶴を射る説明である。スペイン語では、Francia-francés 「フランス-フランスの」、Japón-japonés 「日本-日本の」など、-és は形容詞の語尾の1種ではあるものの、スペイン語の形容詞全般が、-és という語尾を必ずしも取るわけではないのと同じだからである。
- 3) Coromines (2008:318) によると、「山の豚」を意味する hinzir yabali (筆者注: حنزير جبلي hinzir yabali 「豚」ジャバリー「山の」) の短縮形が jabalí であると書かれている。ただし、スペイン語アラビア語辞典である Corriente & Ould Mohamed Baba (2010) や Moscoso Garcia (2015) で、スペイン語の jabalí を調べても、حنزير جبلي hinzir yabali の訳語は登場しない。少なくとも現代のアラビア語で

は、*خنزير جبلي* *hinzir yabali* は使われていないようである。なお、Corriente & Ould Mohamed Baba (2010) によるとスペイン語の *jabalí* は *خنزير بري* (*hinzir barri* ヒンズィール「豚」バリー「陸地の」) という訳語となっている。

- 4) アラビア語がスペイン語の構造に影響を与えたと見る研究者もいる。例えば動詞+主語の語順はアラビア語に由来する説があると寺崎 (2010: 58) は紹介する。ただし、決め手にはけるとのことである。なお、Corominas & Pascual (1989: 473) は、「いのしし」が、ラテン語からの流れにある (PORCUS) SINGULARIS「単独で暮らす(豚)」に端を発し、カタルーニャ語では *senglar*、フランス語では *sanglier*、イタリア語では *cignale* という名前になっていることを紹介している。
- 5) 調音点・調音法の名称は、東京外国語大学言語モジュール「1.1. 子音体系の概略」<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ar/pmod2/1-1/1.html> に従った。
- 6) طは、*د*/d/ や *ت*/t/ とは音素対立をなす「重い d」と説明される *ض* の無声音である。「重い d」の *ض* はアラビア語の象徴的な音と説明される。
- 7) ただし、今回の調査では、スペイン語におけるアラビア語起源の単語は、*مخزن*「倉庫」(語根 *خزن* *jzn*「貯える」) と *مسجد*「モスク」(語根 *سجد* *sjd*「ひざまづく」) 以外は、そのまま語根として辞書を引ける形であった。*ما* (*ma*-マ〜「〜する場所」) が接頭辞であることを確認できれば、他の単語は辞書掲載の形にたどり着けることがわかった。*ما* (*ma*-マ〜) が「〜する場所」という接頭辞であることをスペイン語の授業で紹介してもよいのではないかと感じた。
- 8) サンスクリット語の動詞も同じく語根が辞書掲載の形である(石井2021: 20)。語根主義はアラビア語だけでなくサンスクリット語でも展開されているところから、外国語教育に一定の効果があると思われる。語源をメインに記した岡本(2021)を除き、スペイン語では語根をもとに収録した辞書や語根を中心にした教科書はいまだ刊行されていないようなので、語根という観点は、新たなスペイン語教育の視点として今後期待できるかもしれない。
- 9) 水谷(2010)ではスペイン語に入っていたアラビア語の単語についての言及は見当たらなかった。
- 10) この教科書は、日本語母語話者の教員が「Español Comunicativo I/II」のサポートをする「スペイン語基礎演習I/II」という科目でも2021年度末まで使用されていた。
- 11) Real Academia Española (1992) すなわちDRAE21版では、スペイン語の挨拶表現として有名な *hola* がアラビア語起源とされていたのだが、DRAE22版およびDRAE23版では、その語源情報がなくなっている。
- 12) DRAE23版にせよ高垣他(2007)にせよ、*سندية* (*sindiya* スィンディーヤ) は女性形である。高垣他(2007)には「メロン、すいか」を意味する *baṭṭiḥa* バッティーハが省略されているという情報が加わっているが、アラビア語の「メロン、すいか」は最後に *-a* の音はなく、*بطيخ* (*baṭṭiḥ* バッティーフ) であり男性名詞である。よって、*baṭṭiḥa* にせよ *sindiya* にせよ、語尾の *-a* がアラビア語としては正しくないように思える。スペイン語の *sandía* が *-a* で終わっているがために、それに合わせてしまった記述なのではないだろうか。なお、最新の語源の読み物である Filali 他(2022: 137)でも、スペイン語 *sandía* に関する語源が紹介されているのであるが、これまた *sindiyyah* と女性形になっている。

- 13) اسم نوع من الشوربة الباردة قوامه الخبز البانت والخيار والطماطم مع الخل والزيت واللح والثوم والبصل  
全粒粉パン、きゅうり、トマトに酢、油、塩、にんにく、玉ねぎを加えた冷たいスープの名前  
[Google翻訳]
- 14) Corominas & Pascual (1989: G-MA 517) でも zeneti や zanati に由来しているとしている。Gil 他 (2015:190) も Zanata の地名形容詞 zanati に由来しているという。
- 15) Madridの語末の d が, ɟ[d]で転写されている。現代スペイン語の語末 -d は、中世期に t で綴られていることも多い (現代スペイン語 ciudad 「都市」-中世スペイン語 ciudat) ことから、中世期には[t]という発音が主流だったと考えられる上、現代スペイン語では、ほとんど無音になっており、発音されたとしても[θ]になりがちなので、現代アラビア語における ɟ[d]での転写は、おそらく英語経由であると推察される。
- 16) ただし、正則アラビア語の「椅子」は, كرسي kursi クルスイーという単語が使われるので、汎用性の高いアラビア語を学習したいのであれば、やはり敷居が高くなる。

## 参考文献

### (欧文)

- Cano Aguilar, Rafael (1988) *El español a través de los tiempos*, Arco/Libros.
- Corominas, Joan & Pascual, José A. (1989) *Diccionario crítico etimológico castellano e hispánico*, Gredos.
- Coromines, Joan (2008) *Breve diccionario etimológico de la lengua castellana*, Gredos.
- Corriente, Federico (2007) “Ibero-Romance Loanwords”, *Encyclopedia of Arabic Language and linguistics*, Volume II Eg-Lan, Brill.
- Corriente, Federico & Ould Mohamed Baba, Ahmed-Salem (2010) *Diccionario avanzado árabe Tomo II español-árabe*, Herder.
- Familiar, Laila (2021) *A Frequency Dictionary of Contemporary Arabic Fiction Core Vocabulary for Learners and Material Developers*, Routledge.
- Filali, Shayma; Villalba, Israel & Amorrortu, Peru (2022) *La vida secreta de las palabras*, La Esfera de los Libros, S. L.
- Gil, Juan (dir.) (2015) *300 historias de palabras : cómo nacen y llegan hasta nosotros las palabras que usamos*, Espasa.
- Kiesler, Reinhard (2007) “Ibero-Romance”, *Encyclopedia of Arabic Language and linguistics*, Volume II Eg-Lan, Brill.
- Maamouri, Mohamed編 (2018) *THE GEORGETOWN DICTIONARY OF MOROCCAN ARABIC Arabic-English English-Arabic*, Georgetown University Press.
- Medina, Maan Z (1973) *Arabic-English University Dictionary of the Modern Literary Language*. Compiled



- and Arranged by Maan Z. Medina, IPA.
- Moscoso García, Francisco (2015) *Diccionario de árabe marroquí*, Ediciones Trea.
- Nieto Ballester, Emilio (2017) *Introducción a la etimología*, Sintesis.
- Pando Villarroya, José Luis de (1997) *Diccionario de voces árabes*, TOLEDO.
- Real Academia Española (RAE) (1992) *Diccionario de la lengua española, vigésima primera edición*, Espasa-Calpe. [DRAE21版]
- Real Academia Española (RAE) (2001) *Diccionario de la lengua española*, 第22版 オンライン版.  
<https://www.rae.es/drae2001/> (2022年10月26日最終アクセス) [DRAE22版]
- Real Academia Española (RAE) y la Asociación de Academias de la Lengua Española (ASALE) (2014) *Diccionario de la lengua española*, vigésima tercera edición (第23版), Espasa-Calpe. およびそのオンライン版 <https://dle.rae.es> (2022年10月26日最終アクセス) [DRAE23版]
- Wehr, Hans (2013) *A Dictionary of Modern Written Arabic*, Edited by J. Milton Cowan. Snowball Publishing.  
(オンデマンド)

(和文)

- 長谷川信弥 (2011) 「カタロニア語におけるアラビア語起源の語彙についての考察」、*Estudios Hispánicos* 36、pp. 7-14、大阪大学外国語学部スペイン語部会.
- 本田孝一、石黒忠昭編 (1997) 『パスポート初級アラビア語辞典』白水社.
- 石原忠佳 (2000) 『モロッコ・アラビア語』大学書林.
- 石井裕 (2021) 『ニューエクスプレスプラス サンスクリット語』白水社.
- 水谷周 (2010) 『アラビア語の歴史』国書刊行会.
- 岡本信照 (2021) 『スペイン語の語源』白水社.
- 高垣敏博監修 (2007) 『西和中辞典』第二版、小学館.
- 田中博一 (2017) 『現代アラビア語辞典 アラビア語-日本語』、鳥影社.
- 寺崎英樹 (2010) 『スペイン語史』大学書林.
- 吉田秀太郎 (1957) 「イスパニア語に及ぼしたアラビア語の影響」『大阪外国語大学学報』5、pp. 95-112.

(どい・ひろふみ 外国語学部准教授)